

第2回 圧送技術研究会

2005.7.23(土) 午後1:00~5:30

生コンクリートの性能とポンプ圧送性について

コンクリート構造物の仕様やコンクリート用材料の変化、高強度・高流動生コンの多用など、コンクリートの施工性やポンプ圧送性が大きく影響を受けている。また、責任施工の観点から各種設計・セネコン・生コン製造・圧送業・土工業等の連携が取りにくい実態がある。コンクリートの圧送現場では、品質管理・安全施工の観点から横断的な議論とスキルアップ

研究会後、日本建築学会近畿支部材料施工部会内にポンプ工法ワーキング・グループが作られた。研究目的は、圧送負荷計

の継続した取り組み

を図りたいという強い要望があった。そのため、昨年7月10日、全国に呼びかけた第1回圧送技術研究会「コンクリート圧送の技術の現状と課題」(大阪生コンクリート圧送協同組合主催・256名参加)が開催され、大きな反響を呼んだ。

また、高層ビルの再度の実施工下でのデータ取り、再度のフィールド実験(生コンの調査の組合せを変え、100m・200mの水平配管に延長)を実施する予定。多くのデータ収集に努めていく。



算の基礎となる「水平管1mあたりの管内圧力損失」(K値)(過去のデータからの析出)の見直し、現場における圧送性の簡易測定法の開発などをめざしている。具体的に、大圧協の委託を受けて、高強度生コン(最高70N)のポンプ圧送性の実施工下でのデータ取り(大阪市港区弁天町200m高層ビルの現場・鹿島建設)や生コンの性状の違いによるポンプ圧送性についてのフィールド実験(鴨池沼組技術研究所)を実施してきた。今回、こうした研究結果の発表も含め、第2回圧送技術研究会(材料施工部会・大圧協共催)を開催する運びとなった。主催者の参加見通しは300名である。

第2回 圧送技術研究会

- 生コンクリートの性能とポンプ圧送性について -

2005年7月23日(土) 午後1:00~5:30

会場 大阪工業大学 創立60周年記念館 記念講堂

□主催者挨拶

吉田 伸(大阪生コンクリート圧送協同組合理事長)

□基調講演Ⅰ

「生コンの品質とポンプ圧送性について」

和美 廣喜(鳥根大学総合理工学部教授)

□基調講演Ⅱ

「コンクリートポンプの現状と今後の動向について」

稲田 善明(社団法人日本建設機械工業会
コンクリートポンプ部会)

□研究報告

「ポンプ圧送実験及び高強度コンクリートの実施工における生コンクリートの性状と圧送性について」

岩清水 隆(株式会社竹中工務店)

木村 芳幹((財)日本建築総合試験所)

山崎 順二(株式会社浅沼組)

千々岩 伸佐久(極東開発工業株式会社)

□パネルディスカッション

コーディネーター 木村 芳幹(前掲)

パネリスト 二村 誠二(大阪工業大学)

和美 廣喜(前掲)

岩清水 隆(前掲)

山崎 順二(前掲)

吉見 正((社)全圧連)

千々岩 伸佐久(前掲)

片岡 宏治(大阪兵庫生コンクリート工業組合)

安田 徹(ブライスタージャパン(株))

村田 隆男((株)フローリック)

□閉会挨拶

二村 誠二((社)日本建築学会近畿支部材料施工部会主査)

参加費: 1000円(資料代含む)

共催 社団法人 日本建築学会近畿支部材料施工部会 大阪生コンクリート圧送協同組合

連絡先 〒552-0007 大阪市港区弁天1-6-8 オレンジビル2F
TEL.06-6599-5530 FAX.06-6599-5537

後援 社団法人 大阪建設業協会

全国生コンクリート工業組合連合会近畿地区本部

財団法人 日本建築総合試験所

コンクリート用化学混和材協会

社団法人 全国コンクリート圧送事業団体連合会

社団法人 日本建設機械工業会

アクセス

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから大阪市営バス(34系統守口車庫行)で約25分「中宮(大阪工大前)」下車すぐ
- 大阪市営地下鉄谷町線「千林大宮」駅(2号出口から徒歩約10分)
- 京阪本線「千林」駅から徒歩約15分

